包括的な学校改善の視点：働き方改革

ＩＣＴ及び専科教員を活用し業務の効率化にむけた学校モデル

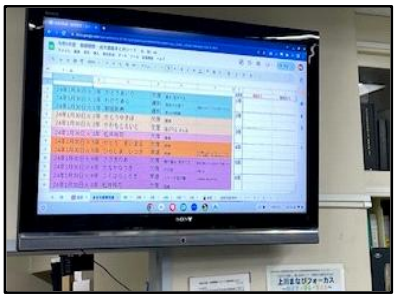
中核校	名寄市立名寄東小学校	指定校	名寄市立名寄小学校、名寄市立名寄東中学校 名寄市立智恵文小中学校

■　構築した学校モデルの具体

○　ＩＣＴを活用した業務推進

・会議資料のペーパーレス化やスケジュール管理のオンライン化、教材の教員間での共有を図る。

・保護者との連絡において、出席連絡のデジタル化により校務処理の負担軽減を推進する。



【職員室の大型モニターによる情報共有】

○　コアチームによる改善プロセスの推進

・校務分掌代表や特別支援コーディネーターで構成するコアチーム会議を定期的に実施し、意見集約の場を積極的に設け、早期に実施できるように地域との連携を図る。

・日課表の大幅な見直しを図り、教職員が優先したい業務に専念できる時間の確保に努める。

【コアチーム会議による検討】

○　学校事務の学校間連携

・市内事務職員のネットワークを生かして、連携して取り組める事務業務を推進する。

・学校備品等の整理確認と借用の簡略化を図るとともに、共同学校備品・消耗品購入、他校への備品の移動調整を図る。

■　学校モデルの構築に向けた取組の具体

〔管理職の取組〕

・「月別学校改善プラン」による学年経営、分掌経営の具体目標の可視化と管理職による進行管理を実施し、学校全体のウェルビーイングの実現を目指した。

・働きがいを感じることができる環境づくりの取組として、大幅に日課表を見直し、毎週月曜を特別日課とし、各教職員が業務に専念できる「放課後マイタイム」の時間とした。

・教職員が業務に専念できる時間を確保し、充実感の得られる働き方を実現することで健康の維持・ストレス緩和を図るとともに、心理的安全性の確保のため、互いに理解し合い、尊重し合える雰囲気の醸成を図った。

〔専科教員の取組〕

・専科教員が専門的知識を生かし、理科備品や薬品の管理を効率的にきめ細かく行い、理科室の学習環境を整備した。

・ＩＣＴの効果的な活用場面や方法等について、名寄市の学習規律に基づいた授業ルールや授業スタイルの共有化の推進を図った。

・理科専科が巡回している指定校の様子を理科通信等で紹介し、各校の授業改善を促進した。

【教材・教具が整理整頓された理科室】

■　各指定校への学校モデルの普及方策

・地域協議会や名寄市教育改善プロジェクト委員会において、中核校における実践及び指定校における効果的な取組事例を共有した。

・名寄市教育改善プロジェクト委員会だより（年２回発行）を作成し、中核校での実践を市内指定校と共有した。

・名寄市教育研究大会において、教育改善プロジェクト委員会や理科専科の取組の成果を発表し、実践についての交流を図った。